⑳ Situation Semantics and Semantic Interpretation in Constraint-Based Grammars

Per-Kristian Halvorsen(Xerox PARC,米国)

発表要旨

統語論と意味論の新しい相互作用について述べる。Montagueによる解析は，厳密な合成性原理に基づいており，統語論と意味論が完全に分離されている。

そのため，その対応は同型性により取られている。しかし，Montagueの手法では，部分的にしか明記されていない意味に十分対処できない。本研究では，異なる解析レベルの対応を記述する制約に基づき，それらのレベルの情報を統合する手法について述べる。投射の理論を用い，機能構造，意味表現，統語構造間の関係を制約としてLFGの意味規則として記述し，それらのユニフィケーションにより意味解釈を行う手法が，Montagueの手法のように，構文木の構造との同型性を必要としないなどの利点があることを述べる。

質疑応答

質問：文中の不連続な構成素は，ある意味構造に同一化されるので問題ないとのことですが，また，どのような意味構造を取っているのかわかりませんが，同じような文で同じ実体を異なる風に言及することがあると思います。例えば，

Someone came in and limped.

A man came in who limped.

のように。前の文では，ある男を提示しその後さらに言及するという形を取っています。徐々にその表現が構成されるのではなく，この文のこの実体に対応する表現が必要であると考えられるのはどうしてですか。

回答：確かにそうです。ある実体に言及する情報は，その文からのも，また他の文からのもあります。しかし，それらの情報をその実体に関連づける方法は異なります。同じ文中なら文法機能でできますが，談話中に存在するのなら，文文法では扱えないので，より複雑な方法が必要です。

質問：この研究の背後にある考え方についてお尋ねします。この研究は，意味論の記述にMontagueのalgebraの機能を結合したものを用いているという考え方でよいのですか。

回答：私の基本的な考え方は，統語構造と意味構造は単純な対応がないということです。Montagueは同型性に基づいているため，統語構造が複雑になる。一方，我々の手法は，様々なレベルの構造はモジュール的で，それらの概念間はお互いに関係がない。

質問：機能構造中のSitSchemaについてもう少し詳しくお願いします。

回答：正確には意味構造中ですが，SitSchemaの概念は，FenstadたちのSituation，Language and Logicという本に記述されています。これは，状況理論的な対象を表現する枠組として開発されたものです。